（独立行政法人教職員支援機構委嘱事業）

新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト
平成27～29年度

成 果 報 告 書

（概　要）

本県では、平成14年度より「子どもと共に創る授業（子ども一人ひとりの願いや興味・関心等に応じた課題学習や発展的学習の構築や、友との関わり合いを大事にし、互いの言動や見方・考え方、追究のよさを学び合う授業づくりなど）」を学習指導改善の重点の一つに掲げ、子どもが主体的に学ぶ授業づくりを推進してきた。これをうけ、県内の多くの学校では、「子どもと共に創る授業」の実現に向け学習指導の工夫が行われてきた。新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現のための学習指導の工夫は、「子どもと共に創る授業」の実現に向けた授業改善といっても過言ではないと捉えている。

一方で、そのような工夫が、一部の名人芸といわれるものであったり、先輩教員から若手教員に継承されていなかったり、校内で共有されていなかったりという現状もある。新学習指導要領が示された今、長野県内各地に埋まっている膨大な「宝」を掘り起こして再生し、「子どもと共に創る授業」の実現を進めていくことが一層重要であると考えてきた。

「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」においては、実践フィールド校等の授業実践から見いだされる学習指導の工夫、研修協力員が全国各地の授業実践から見いだした学習指導の工夫を明らかにするとともに、それらの工夫を多くの教員が身に付けられるような研修プランを開発・実施するなど、多くの成果を得てきた。

本プロジェクトを通して得られたこれらの成果は、リーフレット（本報告書３ページ以降）にまとめて県内小・中学校へ配付し共有を図るとともに、来年度から推進する「信州教育の学びの基盤づくり」事業等に生かしていきたいと考えている。

（推進地域）安曇野市

（実践フィールド校）安曇野市立三郷小学校、安曇野市立三郷中学校

平成30年３月

長野県教育委員会

（独立行政法人教職員支援機構委嘱事業）
新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト
（平成27～29年度）

長野県の取組

長野県では、実践フィールド校、安曇野市内の小・中学校、県内の協力校において、主体的・対話的で深い学びの授業実践と校内研修を実施した。各校の授業実践については県教育委員会教学指導課と信州大学教職大学院が、校内研修については県総合教育センターが、研修協力員と協力してきた。以下の図は、各学校と各機関の取組のポイントをまとめたものである。また、３年間の研究成果を県内の小・中学校へ伝えるためにリーフレットを作成した。

A	実践フィールド校	…三郷小学校と三郷中学校を実践フィールド校に指定。主体的・対話的で深い学びの授業実践と校内研修の実施。
B	安曇野市立の小・中学校	…市内教員と市教委指導主事で構成する学力向上委員会を設置。市内各校での実践事例収集・分析、合同研修会等の実施。
C	長野県内の協力校等	…伊那市立東部中学校、長野県諏訪清陵高等学校附属中学校等を協力校に指定。授業実践と校内研修の実施。
D	信州大学教職大学院	…主体的・対話的で深い学びに関する教職大学院カリキュラム作成、実践フィールド校等への研究に対する協力。
E	長野県総合教育センター	…主体的・対話的で深い学びに関する研修講座を企画・開設。教員の指導力向上のための研修プログラムの分析・開発。
F	長野県教育委員会	…学力向上推進班内にアクティブ・ラーニング推進担当指導主事を配置。Ａ～Ｅと研修協力員との連絡・調整。

三郷小学校の校内研修

教員の足並みを揃えるため研究はじめの会を導入

三郷中の授業公開

年間を見通した授業改善のため６月に全学級授業公開

A 実践フィールド校

安曇野市立三郷小学校の取組

○全教員で足並みを揃えた授業改善
○研究重点グループのリーダーが集まり授業改善の方向性を揃える
○夏休みを利用した「深い学び」の研修

安曇野市立三郷中学校の取組

○協同的な学びの推進
○平成27年度より、自主公開授業として全学級の授業を公開
○子どもの学びを省察する授業研究会

B 安曇野市内の小・中学校

夏期合同研修会の実施

○夏休みを利用した市内教員の合同研修
○研修協力員による事例紹介と演習

県外視察・県外合同視察の実施

○先進的な取組をする県外の学校を視察
○東京都大田区立矢口小学校へ合同視察

安曇野市教育委員会の取組

○「学力向上委員会」による研究推進
○市教委指導主事による継続的な学校訪問

夏期合同研修会

校種や教科等の壁を超えて新たな学びを考え合う研修

県外合同視察

東京都の実践フィールド校の取組に学び合う研修

次世代型 教育推進センター

授業事例の収集・分析等

○県内学校の授業実践事例の収集・分析
○県外学校の事例収集・分析、本県との比較

全国の取組等の情報提供

○県内で開催される研修会等での事例紹介
○当センターホームページ上での事例紹介

研修プランの開発・検証

○校内研修プランの開発
○県内外で開催される研修会での検証

F 長野県教育委員会

子どもと共に創る授業の推進

○子ども一人一人の願いや興味・関心等に応じた課題学習や発展的な学習の構築
○友との関わり合いを大事にし、互いの言動や見方・考え方、追究のよさを学び合う授業づくりの推進

研修協力員との連携

○全国の取組等の情報を県内関係機関に提供
○推進地域における指導法や研修プラン等の実施・検証等、他機関との連絡・調整

C 長野県内の協力校等

各校における多彩な授業実践

○伊那市教育委員会が推進するＩＣＴ教育（遠隔合同授業、１人１台タブレット等）
○長野県諏訪清陵高等学校附属中学校の「じっくり学び、深く考える65分授業」
○信州大学教育学部附属長野小学校・信州大学教育学部附属松本中学校の附属学校としての先進的な取組
○上記の学校以外でも、授業公開や校内研修の実施

E 長野県総合教育センター

新たな学びに関する演習の開発

○県総合教育センターの希望研修講座に「主体的・対話的で深い学びの実現を目指して」を開設。次世代型教育推進セミナー（長野セミナー）として実施
○研修協力員と協働し、長野セミナーで実施する演習内容の開発
○校内研修支援メニューに「主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善」を開設

D 信州大学教職大学院

研修協力員との共同研究

○主体的・対話的で深い学びを紹介するための映像教材の共同開発
○教職大学院の演習へ研修協力員が参加し、全国の実践事例等を紹介
○安曇野市の県外合同視察に教職大学院の院生（現職教員）が参加

推進地域・附属学校園との連携

○安曇野市立三郷小学校への助言
○教育学部附属学校園との連携

H28年度長野セミナー

田村学先生（國學院大）によるセミナーのまとめ

H29年度長野セミナー

石井英真先生（京都大）によるセミナーのまとめ

協力校での校内研修

長野県諏訪清陵高等学校附属中学校での校内研修

新任や若手教員を対象に作成した映像教材

「子どもと共に創る授業」のよさを顕在化させる

○実践フィールド校等の取組を分析し、「子どもと共に創る授業」の要点等をまとめたリーフレットを作成し、県内小・中学校へ配付。
○リーフレットでは「子どもと共に創る授業」の要点を「子どもを真ん中に置いた準備と働きかけ」として分類・整理し、実践フィールド校等の実践事例と紐付けて紹介。

「主体的・対話的で深い学び」の視点を理解する

○リーフレットでは「主体的・対話的で深い学び」の各視点から分析した授業改善の方向性を、長野県の取組と課題として整理。
○県教育委員会では「子どもと共に創る授業」を継続して推進、これに係って「授業がもっとよくなる３観点（ねらい・めりはり・みとどけ）」の質的向上を図る。

単元や題材を見通した授業改善を図る

○県教育委員会では、来年度より単元や題材のまとまりを意識した授業改善を推進。
○そのために、指導主事は１時間の授業改善だけではなく、単元や題材づくりにも関わっていくようにする。
○新学習指導要領に対応した「信州教育の学びの基盤づくり」の推進事業。

このリーフレットは、独立行政法人教職員支援機構「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト（平成27～29年度）」の実施報告書として、
長野県教育委員会教学指導課の協力のもと、長野県から派遣された次世代型教育推進センターの研修協力員が作成したものです。

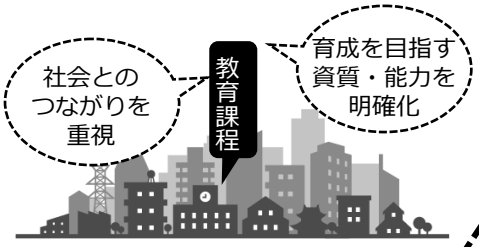
独立行政法人教職員支援機構

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善で

子どもと共に創る授業を磨く

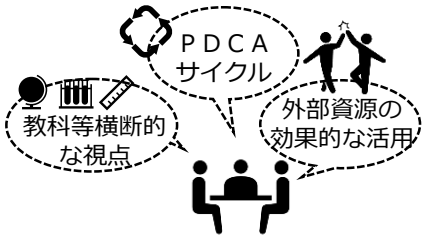
学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

社会に開かれた教育課程

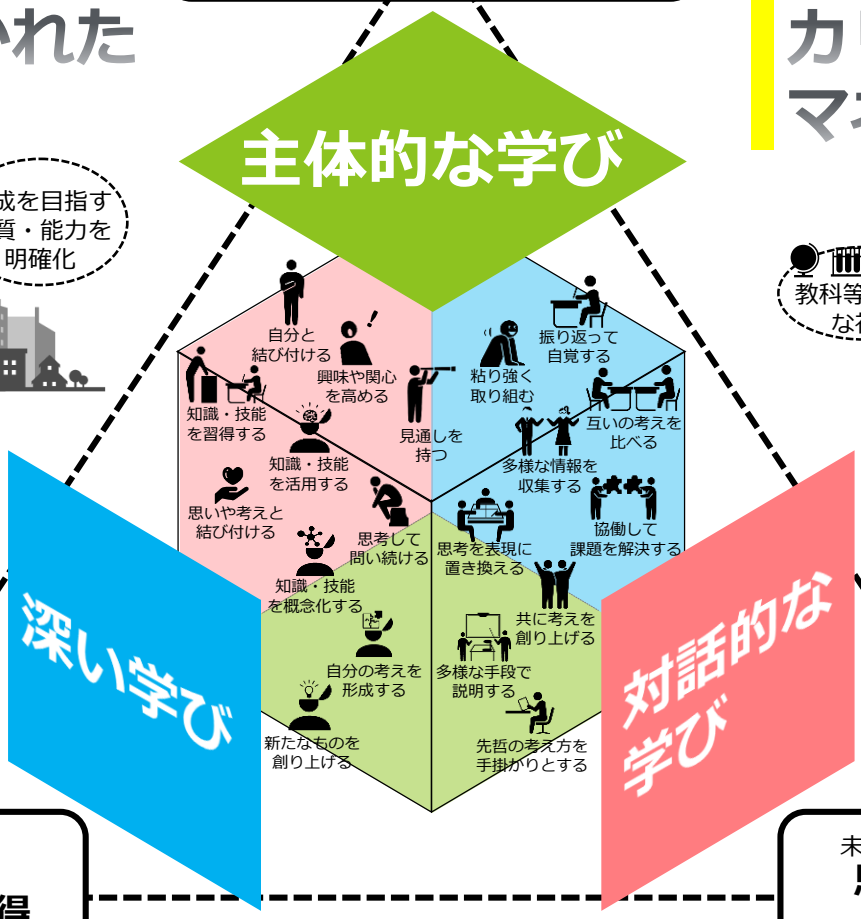


これからの時代に求められる教育を実現するため、社会との連携や協働により、その実現を図っていく社会に開かれた教育課程。この社会に開かれた教育課程の実現に向けては、子どもたちにとって必要な資質・能力を明確にしていくことや社会とのつながりを重視した学校づくりが課題として考えられています。

カリキュラム・マネジメント



教育課程に基づき組織的かつ計画的に各校の教育活動の質の向上を図っていくカリキュラム・マネジメント。学校教育目標の実現に向けて、子どもや地域の実態を踏まえ、教育課程を編成・実施・評価し、改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを組織的・計画的に推進していくことが求められます。



生きて働く
知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

1 「学習する子どもの視点」に立つ

私たち長野県の教員は「子どもと共に創る授業」を目指してきました。この授業づくりの方向性は新学習指導要領の基本理念である「まずは学習する子どもの視点に立つこと」に重なる考え方です。では、これまでの取組の何を大事にし、何を改善していけばよいのでしょうか。このリーフレットを通して、資質・能力の育成を目指す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のヒントを共に考えていきましょう。

主体的・対話的で深い学びで資質・能力の育成を目指す

新学習指導要領で学んだ子どもたちが活躍する未来は、予測が難しい時代だと言われます。そんな厳しくもやりがいのある時代を生きる子どもたちにとって必要な資質・能力が「生きて働く**知識・技能**」「未知の状況にも対応できる**思考力・判断力・表現力**等」「学びを人生や社会に生かそうとする**学びに向かう力・人間性**等」です。これらの資質・能力をバランスよく育成するための授業改善の視点が主体的・対話的で深い学びです。

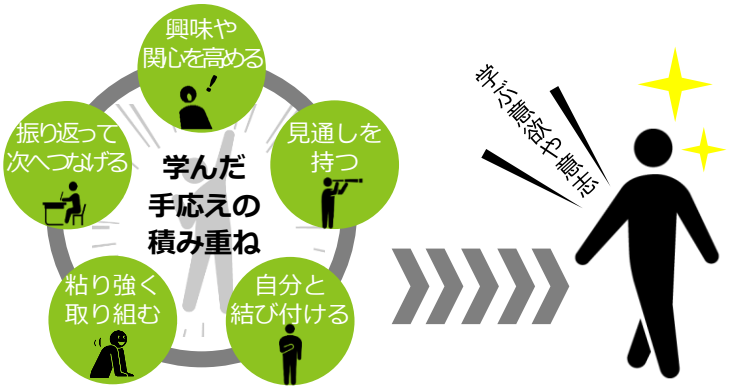
主体的な学び、対話的な学び、深い学びの三つの視点は、**子どもの学習過程では一体として実現され、相互に影響し合う**ものですが、授業改善の視点としては**それぞれ固有の視点**であることに留意が必要です。

このことを念頭に置きつつ、**単元や題材のまとまり**の中で、子どもたちの学びがこれら三つの視点を満たすものになっているか、それぞれの視点の内容と相互のバランスに配慮しているかなど、学びの状況を把握し、改善していくことが求められます。

2 子どもが学ぶ姿を具体的にイメージする

主体的な学び、対話的な学び、深い学びの各視点ごとに、子どもが学ぶ姿を具体的にイメージしてみましょう。各視点に登場するピクトグラムは、各視点ごとに実現される特徴的な子どもの学びの姿を分類し、例として示したものです。

主体的な学び



学ぶことに興味や関心を持ち、
自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、
見通しを持って粘り強く取り組み、
自己の学習活動を振り返って次につなげる
「主体的な学び」が実現できているか。

学んだ手応えを積み重ねていくイメージ

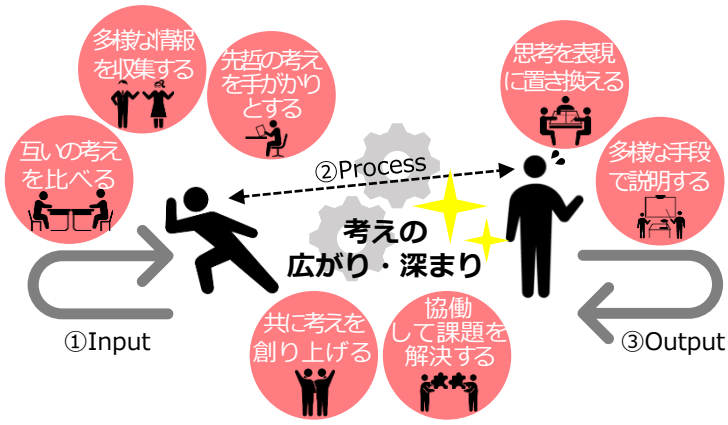
長野県の取組と課題

私たち長野県の教員は、子どもたちが「分かる喜び」「できる喜び」を実感できる授業づくりを目指してきました。分かったら（知的）、いい気持ちがした（情意的）という学んだ手応えの積み重ねが、前向きに学びに臨もうとする姿勢の形成につながり、分からないことに対して「もっと分かりたい」「もっとできるようになりたい」という意欲や意志を生み出すと考えられています。

たとえば、授業の振り返りの際に子どもが自己の変容を自覚できるような工夫をすることで、学んだ手応えの積み重ねにつなげることができそうです。

対話的な学び

考えを広げ深めていくイメージ



子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考えを手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

長野県の取組と課題

私たち長野県の教員は、主に学習課題を追究する場面において、一人一人の願いや解決方法を理解し合う場面を位置付けることで、子ども同士が互いの追究を支えたり深めたりできるように努めてきました。

さらに、他者と対話する必然性を持っているか、個人の考えの根拠や理由を問い合えるか、対話による考えの変容を自覚できるかなどの検討をしてはどうでしょうか。

左の図の「②Process（情報の処理過程）」の段階を意識すると、子ども自身が対話によって考えを広げたり深めたりする姿を具体的にイメージすることができそうです。

深い学び

学んだことを関連付け、体系化していくイメージ

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

長野県の取組と課題

私たち長野県の教員は、「子ども」「教材」「問題解決の過程」をバランスよく理解した教材研究を目指してきました。深い学びの実現にあたっては、これら三つの要素を踏まえた教材研究がますます重要となってきそうです。

特に、「問題解決の過程」においては、学んだことを子ども自身が関連付け、体系化していくイメージを持ってはどうでしょうか。触れて学ぶ場面、関わって学ぶ場面、感じて学ぶ場面などの、めりはりのある場面を単元や題材の流れに位置付けることで、子どもが学んだことを関連付け、知識・技能を体系化していく学びを期待できます。

3　子どもを真ん中に置いた準備と働きかけ

私たち長野県の教員は、子どもを真ん中に置いた授業づくりを目指してきました。では、授業前にどんな準備をし、授業中にどんな働きかけをしているでしょうか。

図１は準備（①～④）と働きかけ（⑤～⑧）を整理し、図２は実現したい学びの姿を真ん中に置き、図１を参考にマンダラチャートで整理した例です。事例と共にごらんください。

図１

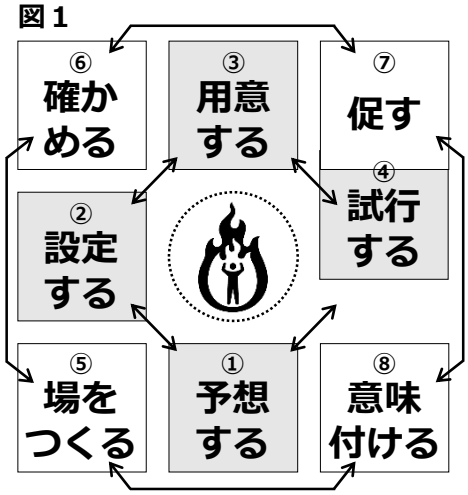


図２

⑥知識・技能が身に付いているかを確かめる	③思考が深められる教材を用意する	⑦他者との些細な質問や応答を促す	⑥情報を適切に処理しているか確かめる	③質と量を調整した情報を用意する	⑦友の情報や考えとの比較を促す	⑥既有の知識等が活用されているか確かめる	③生活や社会につながる教材を用意する	⑦他者との創造的な解決を促す
②学習過程に習得の必然性を設定する	F 知識・技能を習得する	④知識・技能を習得する過程を試行する	②情報を収集する機会を設定する	C 多様な情報を収集する	④情報の整理や分析ができるか試行する	②学習過程に活用の必然性を設定する	G 知識・技能を活用する	④知識・技能を活用する過程を試行する
⑤新たな知に心が動く場をつくる	①知識・技能を習得した姿を予想する	⑧思考をして習得した過程を意味付ける	⑤集めた情報を交換する場をつくる	①収集による思考の変容を予想する	⑧収集による思考の変容を意味付ける	⑤解決に向けて心が動く場をつくる	①活用によって育まれるを知識等を予想する	⑧思考・表現を経た活用の過程を意味付ける
⑥ねらいに沿っているかを確かめる	③学びを振り返るシートを用意する	⑦協働等による変容の振り返りを促す	F 知識・技能を習得する	C 多様な情報を収集する	G 知識・技能を活用する	⑥根拠や理由が説明されるか確かめる	③説明内容に適したツールを用意する	⑦臨機応変に説明を工夫するよう促す
②学びを振り返る機会を設定する	B 振り返って次へつなげる	④十分な時間が確保できるかを試行する	B 振り返って次へつなげる	実現したい学びの姿	D 多様な手段で説明する	②他者へ説明する機会を設定する	D 多様な手段で説明する	④ツールの適切性や有効性を試行する
⑤間を取り思考を振り返る場をつくる	①学びを振り返る言葉を予想する	⑧個の学びの変容や成長を意味付ける	E 協働して課題解決する	A 見通しを持つ	H 知識・技能を概念化する	⑤沈黙する友を受け入れる場をつくる	①説明を通した思考の変容を予想する	⑧説明を通した思考の変容を意味付ける
⑥情報を解決に生かしているか確かめる	③情報を整理できるツールを用意する	⑦情報の共有や課題の解決を促す	⑥解決の見通しを持てたか確かめる	③見通しを持つための教具等を用意する	⑦既習事項や友の考えとの比較を促す	⑥教科への関心を強めているか確かめる	③教科の本質に迫れる教材を用意する	⑦納得に至るまで対話を重ねるように促す
②協働する必然性のある課題を設定する	E 協働して課題解決する	④情報の交換が的確にできるか試行する	②見通しを持つ段階を設定する	A 見通しを持つ	④課題を設定していく過程を試行する	②各教科等の特質に応じた学習過程を設定する	H 知識・技能を概念化する	④問いが連続する教材であるか試行する
⑤協働する必然性のある場をつくる	①協働解決により考えが深まった姿を予想する	⑧思考が変容した価値を意味付ける	⑤互いの見通しを出し合う場をつくる	①子どもが見通しを持った姿を予想する	⑧見通しを持てたことを意味付ける	⑤学びに没頭できる場をつくる	①納得に至る学びの過程を予想する	⑧納得の過程を個の学びとして意味付ける

・図２は「実現したい学びの姿」としてＡからＨの姿を設定し、その姿を実現するための「準備と働きかけ」について、マンダラチャートを使って拡散的に思考した例です。ここに書かれた「準備と働きかけ」はあくまでも一例であり、この限りではありません。

①予想する　E－①　協働解決により考えが深まった姿を予想する

By the way, do you know Shun Oguri ?

あっ・・・。今の"By the way"の使い方、ダメだったな。

"By the way"なんて言っちゃって。ごめん。

E 協働して課題解決する

一学期に様々な英語表現を学んできた子どもたち。これは「紹介しよう！私の大好きな人・憧れの人・尊敬する人」をテーマに３人組で５分間の英語を使った対談に挑戦した後、友に向かって語りかけている場面です。教師は対談のゴールを**「自然なコミュニケーションを通して、使える英語として習得していく姿」とイメージしました。**

子どもは話題転換の表現を使った後に友の表情が曇ったのを目の当たりにし、By the wayが、友の伝えようとする気持ちを切る働きがあることを実感的に理解しました。

長野県諏訪清陵高等学校附属中学校（第２学年・外国語科）

② 設定する　D－②　他者へ説明する機会を設定する

動物園のルールは守らなくちゃ！

僕だったら、子どもたちに付き添う。

でも、特別な日だから、動物園に入れてあげたい。

ちょっと動かそうかな？

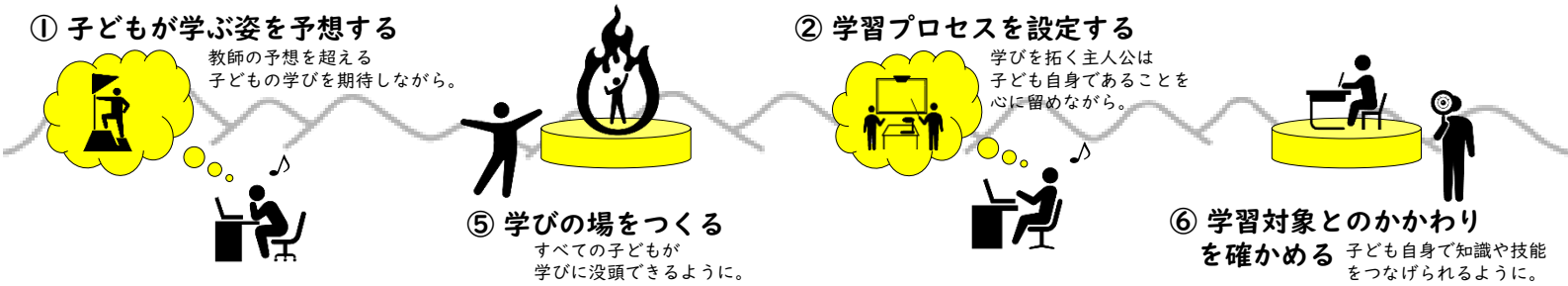
D 多様な手段で説明する

日常生活において、ルールやマナーを守る意義を感じ始めた子どもたち。これは、資料を読んだ後、「幼い姉弟を閉園時間が過ぎた動物園に入園させるかどうか」を語り合っている場面です。

教師は「入園させる↔入園させない」の数直線を記入したホワイトボードを配り、**ネームプレートで自分の考えの位置を示しながら友へ説明する機会を設定しました。**

子どもたちは互いの理由を聞き合いながら、この出来事を巡る葛藤について考えを深めました。

安曇野市立三郷中学校（第２学年・道徳）



⑤ 場をつくる　B－⑤　間を取り、思考を振り返る場をつくる

これまでみんなと学んできた基本的人権に関するいろいろな出来事。

何だろう？

この出来事が、私たちではなく、「わたし」に問いかけていること。

B 振り返って次へつなげる

単元を通して「人権とは何か」という問いに向き合ってきた子どもたち。

「今回の授業を振り返ってみて私たちではなくて、『わたし』に問いかけているものって何だろう。」

教師はこう語りかけた後、**しばらく間を取りました。**それまで活発な議論に包まれていた教室の雰囲気が一変します。

30秒ほどの沈黙が続きました。

「プリントの空欄に自分の考えをまとめてみましょう。」教師の言葉とともに、教室には筆記用具を走らせる音だけが響き渡りました。

長野県諏訪清陵高等学校附属中学校（第３学年・社会科）

⑥ 確かめる　A－⑥　解決の見通しを持てたか確かめる

もっと聴きたい！

もっと僕たちのイメージにピッタリな曲があるはず！

先生！新しい候補曲、聴かせて！

A 見通しを持つ

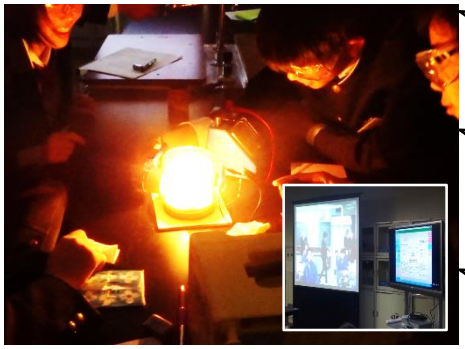
文化祭で歌うクラス合唱曲を決めている子どもたち。これは、前時に行った１次投票の結果を聴いた後に、もっと候補曲を聴きたいと訴えている場面です。

教師は子どもたちが「これが私たちの曲だ」と思える合唱曲と出合えるように、教材研究を深めるとともに、選曲していく過程を工夫しました。

子どもたちが選曲した理由を語り合う中で、各候補曲の要素の働きや音楽的な特徴を比べながら、友と創り上げたいイメージを膨らめ、選曲への見通しを持ったことを確かめた教師は、新曲を提案しました。

安曇野市立三郷中学校（第２学年・音楽科）

③ 用意する　C－③　質と量を調整した情報を準備する



よし！
20秒、超えたぞ！

間隔を変えてみようよ。
相手の中学校のあの班は、
間隔5㎝だって！

間隔を広げると
長く光るってことなの？
どういうこと？

C 多様な情報を収集する

都市部と山間部の中学校をテレビ会議システムでつなぎ、どのエジソン電球が長く点灯し続けることができるかを競っている場面です。

両校の教師は、遠く離れた両校の子どもたちが互いの実験計画を理解できるように、**各グループの実験計画シートをスクリーンに投影し、考えを広げ深めるための情報を準備しました。**

すると、子どもたちは「フィラメントのもととなるシャープペンシルの芯の太さ、間隔、電圧」の条件を変えながら試行錯誤することができました。

伊那市立東部中学校（第２学年・理科）

④ 試行する　G－④　知識・技能を活用する過程を試行する

タブレット使うね！
この三角形と、
この三角形って面積が
等しいでしょ！

この三角形が
重なってるのか！

ねえ、ねえ。
画用紙使ってもいい？

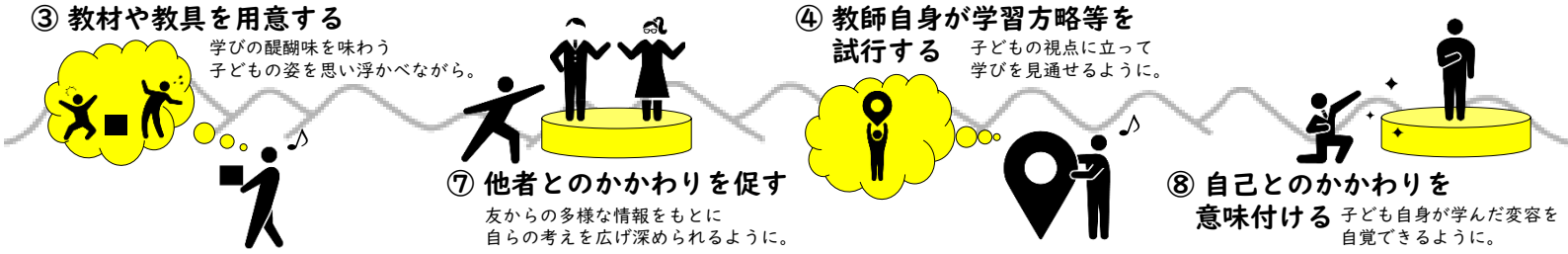
G 知識・技能を活用する

教師が提示した重なり合う二つの三角形から、面積が等しい三角形のペアを探し出し、それらの面積が等しい理由について、既習の面積の公式を活用して友と説明し合っている場面です。

教師は、**習得した知識を活用して友に説明するために、どんなツールがふさわしいのかを何度も試行しました。**

その結果、子どもたちは書いたり消したりすることが容易なタブレット、切ったり貼ったりすることが容易な画用紙を使い分けながら、既習事項を活用して友に説明を繰り返すことができました。

安曇野市立三郷小学校（第５学年・算数科）



⑦ 促す　F－⑦　他者との些細な質問や応答を促す

きのうは
１０ひく９だったよね。

うん。

きのうの９みたいに
きょうの８にも
ひみつがあるのかな？

ん？　どういうこと？

F 知識・技能を習得する

「くりが 13こ あります。８こ たべると、のこりは なんこですか？」この問題を読んで「８」にひみつがあることに気付いた子どもたちは、「じゅういくつから８をひいて、８のひみつを考えよう」と考えました。これは、隣の友と相談している場面です。

教師は**友と関わって課題を追究する姿を願い、隣の友との意見交換を促しました。**

すると、その子なりの疑問がぽつりぽつりと語られ、曖昧だった点などが少しずつはっきりとしました。

安曇野市立三郷小学校（第１学年・算数科）

⑧ 意味付ける　H－⑧　納得の過程を個の学びとして意味付ける

巨大古墳を造った理由は、
ほかの豪族たちに
権力を見せつけるため
だと思っていた。

でも、
みんなと考えたことで、
朝鮮半島という国外に
対する理由が見えてきた。

いくつもの理由が
絡み合って、
巨大な古墳が造られた
ことが分かった。

H 知識・技能を概念化する

「なぜ、たった一人の大王のために巨大な古墳を造ったのか。」個人で予想を立て、グループで検討し、全体で課題解決を図った子どもたち。これは、１時間の学びを振り返っている場面です。

教師は、授業の初めに立てた予想と今の考えを比較できる学習カードを用意し、**子どもたちが自らの思考の変容を自覚できるようにしました。**

すると、子どもたちは、古墳造営の背景には国内だけでなく東アジアとの関係性を重視した政治が行われていたことまで視野を広げて自覚することができました。

長野県諏訪清陵高等学校附属中学校（第１学年・社会科）

4「見方・考え方」を意識した授業づくり

授業づくりの際に意識したいのが「見方・考え方」。子どもたちはどんな「対象」と出合い、どんな「方法」でアプローチしていくのかを意識してみましょう。

子どもたちは、各教科等ならではの「見方・考え方」を働かせているでしょうか。深い学びを実現するためには「見方・考え方」を意識した授業づくりが欠かせません。

f 理科の見方・考え方

自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。

g 音楽的な見方・考え方

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。

h 造形的な見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。

i 体育の見方・考え方

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。

j 保健の見方・考え方

個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。

k 技術の見方・考え方

生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること。

e 数学的な見方・考え方

事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。

d 現代社会の見方・考え方

社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。

c 社会的事象の歴史的な見方・考え方

社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。

l 生活の営みに係る見方・考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

m 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。

n 道徳科における見方・考え方

様々な事象を道徳的諸価値をもとに自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え、自己の人間としての生き方について考えること。

b 社会的事象の地理的な見方・考え方

社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。

a 言葉による見方・考え方

自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること。

p 集団や社会の形成者としての見方・考え方

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現と関連付けること。

o 探究的な見方・考え方

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けて問い続けること。

各教科等の特質に応じた見方・考え方のイメージ（中学校の例）

参考：中央教育審議会「答申（平成28年12月21日）」

次世代型教育推進センターホームページ

明日の授業や校内研修のヒントに

独立行政法人教職員支援機構 次世代型教育推進センターでは、「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」を実施してきました（平成27～29年度）。

これらの成果をホームページにて公表しています。独立行政法人教職員支援機構の「校内研修動画（講義動画、約20分）」等と併せて、ぜひご活用ください。

次世代型教育推進センター

プロジェクト概要

本プロジェクトに委嘱された推進地域や実践フィールド校などを紹介しています。

授業実践事例

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例を紹介しています。

研修プログラムモデル

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研修プラン等を紹介しています。

都道府県の特設サイト

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた情報提供をしている教育センター等の紹介です。

校内研修（講義動画）

約20分間の講義動画が収録されています。各校の校内研修に組み合わせてご活用ください。

学校名：大田区立矢口小学校（東京都）
教科等：2年図画工作科（平成29年6月）
題材名：にじ色の生きもの

授業実践事例では、次世代型教育推進センターの研修協力員が視察した全国の実践例を紹介しています（約170事例）。下のような1時間の学習過程に加えて、各校の実践背景、授業改善のアプローチ、単元づくりのポイントも解説しています。

工夫して色や「もよう」をつけたいな！

授業の導入場面です。

教師は、早く色をつけたくてたまらない児童を教室の真ん中に集め、「くふうして色をつけよう」というめあてを提示し、どんな工夫ができるかを尋ねました。

児童は既習内容である「だんだんジュース」や「いろいろ色水」を想起し、**自分がイメージする生き物の着色について見通しを持つ**ことができました。

また、教師は同じ研究グループの教員が書いた作品を提示してどんな工夫が発見できるか尋ね、黒いガムテープで区切られていない広い部分の表現方法についてヒントを与えました。

きれいな「もよう」がついたよ！

個人で制作に取り組む時間です。ある児童はイルカを題材に作品を作っています。ツルツルしたイルカに黒いガムテープで「もよう」が作られていました。

まずは青の絵の具をパレットに出し、イメージしたイルカの色になるよう白い絵の具を混ぜていきます。時おり、教室後方の掲示スペースを振り返ります。そこには「だんだんジュース」と「いろいろ色水」があるのです。既習内容を活用しながら表したい「色」、表したい「もよう」を作っていきました。

既知の知識・技能を本時に関連づける学びです。

わあ、友だちからほめられたよ！

ペアと互いの作品を鑑賞し、よさを伝え合う場面です。

イルカを描いている女子児童の作品を見た男子児童は、その鮮やかな色合いをじっと見つめ、「濃い色と薄い色を使ってるんだね。青とか緑とか、そのまま使ってないんだね。どうやったの？」と感心するように尋ねました。

自分の作品を褒められた児童は、はにかみながら頷き、自分の描き方を説明しました。

対話の目的を明確にしたペアワークによって、互いがどのように色づくりや配色を工夫しているかという情報が伝わりやすくなっていました。

次は友だちのよさを生かしたいな！

振り返りの場面です。

再び教室の真ん中に児童を集めた教師は、「自分のお気に入りの色や工夫」「友だちの作品の工夫点」などを尋ねました。

先ほどの男子児童は「次は濃い、薄いの区別をして、自分から絵の具を作っていきたいです」と発言しました。自分のアドバイスが生かされたと実感した女子児童は嬉しそうです。

授業終了後、アドバイスをしていないことに気付いた女子児童は、男子児童のところへ行き話しかけました。友と一緒に**創り出す喜びを味わおうとする学び**が実現されていたと考えられます。